似たモノさがし

似てるけどどこか違う
似てないようでどこか似てる
いろんな工夫や思いを映す
みんぱくの所蔵資料

展示場の食べもの

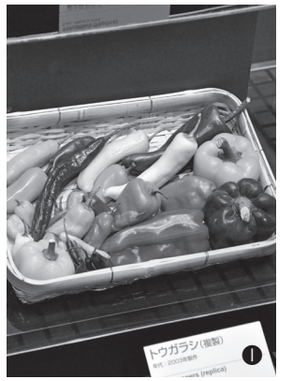
庄司博史（しょうじ ひろし） 民博 民族社会研究部

民博にとって食べ物や食文化にかかわる展示は切っても切れない関係にある。素材や料理自体のおもしろさもあるが、栽培や採集方法から調理方法、さらに食事の作法、儀礼での供え物まで大切な文化資料だからだ。

腐ったり、害虫の食害にあうという宿命を負っているが、食べ物自体を展示で回避していたのでは、無機質で生活感のないものになってしまう。陰気な展示場に、生きいきとして、色あざやかな素材や食べ物が展示されていると雰囲気は一変するだろう。ということで、じつは民博でも食べ物の展示は多い。実物が展示できるのは一部の香辛料や穀物ぐらいだが❸、それに代わる方法がこころみられている。

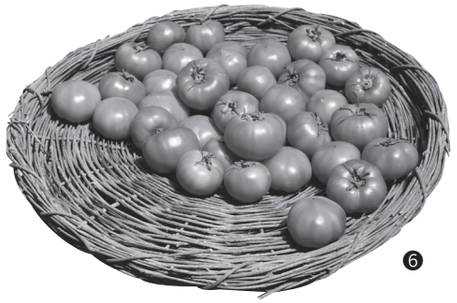
その代表はもちろん複製品（レプリカ）である。民博の展示物のうち古いものでいうと、中央アジアのかまど付近に盛られたトマトやジャガイモは本物らしさでは実物にせまるものがあり、薄暗い土間の一角で生活の息吹を感じさせている❻。またアメリカ展示では、現地原産で世界に拡散したジャガイモやトウガラシの驚くべき多様性が、精巧な複製品によって効果的に紹介されている❶。新しいところでは、昨年リニューアルしたヨーロッパ展示にある各地のパンも、触感もふくめ複製品とはおもえないできばえで、実際に口にいれるまでわからないほどだ❼❽。

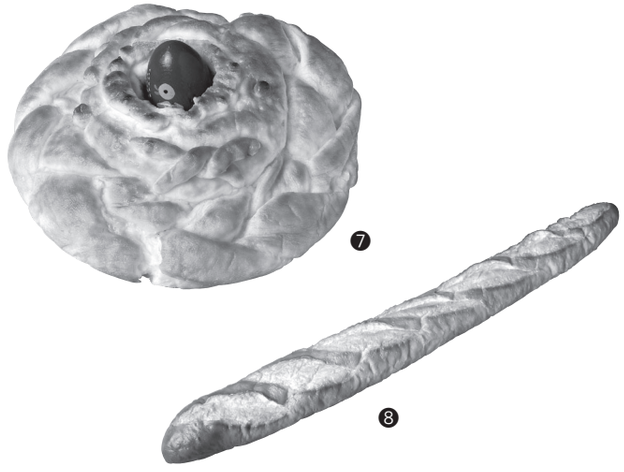
しかし、すべて食べ物の複製品が単に本物らしさだけを追求しているわけではない。食べ物が調理方法や配置などを示す、いわば脇役として展示され、それほど実物に近いものである必要のない場合もある。あまりにも見事なできばえだと、展示の焦点がずれることさえあろう。また、制作の費用と手間を他にまわすために、そこそこの代用品ですませる場合もある。秋山郷民家で小枝につけた花餅や、朝鮮半島の文化展示でムーダン儀式の祭壇に大量に盛り付けられた供え物などは、その場の臨場感を満たすには十分な役割を果たしている❷❹。極端な例だが、二〇〇四年に開催した特別展「多みんぞくニホン」では、在日コリアンの商店で展示したキムチ樽（たる）のなかには複製ではなく写真をはめ込んだ❾。その場の雰囲気で本物と勘違いした来館者もいたようで、実際においを嗅ごうとしている人をみたことがある。



忘れてならないのは、資料自体が複製品、あるいは絵に描かれた食べ物というケースだ。儀礼や祭りの展示では食べ物の複製品がときには忠実に、ときにはあそびを交えながらつくられる。また今春改装した日本の文化展示では野菜や果物で作られた「つくりもの」が展示されているが、祭りで飾るのは一度かぎりというにはもったいないできばえだ❺。

民博に展示された食べ物の複製品、おそらくその総数は誰もまだ数えたことはないと思う。ぜひ探索していただきたい。





❶トウガラシ（複製）、アメリカ展示

❷花餅（複製）、東アジア展示・日本の文化

❸トウモロコシ（展示用に処理した実物）、アメリカ展示

❹ムーダン儀式の祭壇の供え物（複製）、東アジア・朝鮮半島の文化展示

❺つくりもの（野菜一式飾 蘭陵王）、富山県高岡市、H0269569、東アジア・日本の文化展示

❻トマト（複製）、中央・北アジア展示

❼ブルガリアのイースター用パン（複製）、ヨーロッパ展示

❽フランスのバゲット（複製）、ヨーロッパ展示

❾キムチ樽、2004年特別展「多みんぞくニホン」にて展示